

事例：No.25

低コストで効率的な素材生産を行っている林業事業体の活動事例

都道府県名及び担当部署名： 広島県 森林環境づくり支援センター

担当者名： 普及専門員 西本 健治

1. 林業事業体名 山県森林組合

2. 林業事業体の概要

- ①年間素材生産量 500m³ (うち 間伐の占める割合 90%)
- ②生産する主な樹種 スギ, ヒノキ
- ③素材生産に関わる作業員数 4名

3. 活動の特徴

- ・ 小規模零細な林家等が所有する森林について、長期施業受委託を通じて森林の所有と経営の分離を促進し、森林組合が中心となった林業経営を行う低コスト林業団地の設定を行い、効率的で持続的な林業経営の確立を目指している。
- ・ 搬出間伐は、平成17年度まで、ほとんど行っていなかったが、平成18年度以降搬出間伐に積極的に取り組んでいる。搬出間伐に不可欠な路網整備を着実に推進するために、当センターが実施する低コスト作業路網プランナー養成研修へ研修生を派遣するなど、現地で実行できる技術者の養成を行う取り組みを強力に行っている。
- ・ 平成19年度において高性能林業機械（スイングヤーダ、フォワーダ）及びザウルスロボを新規導入し、低コスト林業団地などにおいて路網整備と高性能林業機械等を組み合わせ、生産性、収益性を高めつつ効率的な搬出間伐を行っている。

4. 高性能林業機械等を活用した作業内容

- ①素材生産用保有機械
スイングヤーダ 1台 グラップル 1台 フォワーダ 1台
- ②主に取り入れている作業システム等
作業路の作設：ザウルスロボにより作設
伐倒：チェーンソーによる先行伐倒
集材：スイングヤーダによる列状での集材
造材：チェーンソーによる造材（ハーベスタ導入を検討中）
運材：フォワーダにより土場まで運材
- ③労働生産性
間伐 3m³/人・日（5m³/人・日 を将来的に目指す）
- ④素材生産コスト（トラック運材費を除く）
間伐 10,000円/m³（7,000円/m³ を将来的に目指す）

5. 素材生産の低コスト化による成果と可能性

- ・ 平成19年度において設定を計画している低コスト林業団地34箇所について、長期施業受委託の締結を完了することで、森林組合を中心とした搬出間伐等の低コストで効率的、効果的な実施を具体化していく考えである。
- ・ 低コスト作業路網プランナー養成研修で培った、最適な路網配置と低コストで壊れにくい作業路開設技術により、4路線、約4,000mを作設した。今後、新規に導入した高性能林業機械などを組み合わせて、約500m³の搬出間伐を実施する見込みで、搬出間伐の着実な実施量の増加に繋いでいく考えである。



研修状況(現地)



研修状況(座学)



作業路作設状況



スイングヤーダによる集材状況